令和元年度修了式　校長式辞

第一学年一二〇名、第二学年一〇三名、全員について現学年における課程の修了を認め、明日から年度末休業とします。新型コロナウイルスの影響で、三月二日から臨時休業となり、皆さんと一堂に会して修了式を行えないことは残念ですが、これもいつかはきっと懐かしい思い出となっていることでしょう。

さて、去る三月三日に挙行された卒業式は実に立派で、感動的でした。皆さんは参列できませんでしたが、卒業生の代表が、答辞の中で、在校生への辞（ことば）を残してくれましたので紹介します。

「――在校生の皆さんには、中学生というこの時期、悩みも不安も絶えないことと思います。しかし、今の自分を形作っているものは、過去の困難を乗り越えた自分だということを忘れないでください。私たちは富貴中をよりよくするために、日々の掃除やグラウンドの整備、さらには「富貴中はつらつプロジェクト」などのさまざまな活動に取り組み、富貴中を盛り上げてきました。しかし、まだ足りません。ここには新たに学ぶことも、引き継ぐべき伝統もあります。新時代「令和」にふさわしく、新しい風を吹かせてください。私たちを先輩と呼び、慕ってくれて、力になってくれてありがとう。富貴中を託します。――」

この答辞にちなみ、この機会に、本校の歴史を少し振り返ります。

本校は、地域にとって大切な熊野神社を移し、四八年前（一九七二年）にこの地へ移転しました。校地南側の大きな松林は、ここが鎮守の森であったことの名残です。これらの松は、校章にも校歌にも反映されている本校のシンボルです。

当時の富貴中学校では、「武豊は一つ」という理念の下に、校区を衣浦小学校区の一部に広げて新しい学校づくりが始まりました。知多半島では「丸刈り頭」が当たり前だった当時の中学校にあって、富貴中学校はいち早く長髪の学校となりました。また、放送スタジオやLL教室など、最新の学習環境が整備されました。そしてグラウンドには、当時の生徒によって芝生が植えられました。連日のたいへんな作業だったと聞いています。

こうして、どこにもない新しい風の吹く学校づくりが、生徒たちの強い気概によって推し進められたのです。当時中学生だった私も含め、他校の生徒たちは、そんな富貴中学校を羨望の眼差しで見たものでした。

富貴中学校建設の原点にあったのは、先んじて事を為す「進取の気概」でした。その象徴が県下随一の芝生のグラウンドです。私は、グラウンドの芝生を大切にしてきましたが、それは、富貴中学校の原点である誇り、歴史、「富貴中魂」そのものを顕す大切なレガシーだからです。傷んだ芝生を無頓着にそのまま放置することは、本校の誇り、歴史を蔑ろにすることにほかならないからです。

君たちの胸に刻んでほしいことは、当たり前のことを当たり前に行う「凡事徹底」だけに止まらず、先んじて事を為し、打たれてもなお前に出る逞しい「進取の気概」を兼ね備えてこそ、元来の「富貴中魂」だということです。本校の歴史を踏まえ、先輩たちの志を汲んで、君たちには、その「富貴中魂」をしっかり受け止め、繋いでいってほしいと強く願うものです。

最後に私事ですが、この三月で定年退職となります。毎日、君たちの元気な姿を見るのを楽しみにしてきました。ありがとう。また、保護者の皆さん、地域の方々、そして先生方に心から感謝いたします。皆さんのご活躍と、富貴中学校、この地域のいっそうの発展を祈り、式辞といたします。　（令和二年三月二四日）